

2507.11.30

(第3種郵便物認可)

毎日新聞

高千穂鉄道 再開困難に

町観光協会 会社解散要求へ

宮崎県の高千穂町観光協会(飯千恵久会長代行)は29日、緊急理事会を開き、高千穂鉄道の再開を目指す民間会社「神話高千穂トロッコ鉄道」に、鉄道再開の断念と会社解散を求めることを決めた。同社に61%を出資する協会が再開断念の方針を固めたことで、鉄道の再開は極めて厳しい状況になった。

トロッコ社は今年5月に支援金の募集を始めたが、目標の2億円に対し、3800万円しか集まっていなかった。また、高千穂—延岡間(約50キロ)のうち、延岡—榎峰間(約29キロ)は廃止が確認され、榎峰—高千穂間(約21キロ)の休止期限も12月26日に迫り、国土交通省から再開許可を受けるのは困難と判断した。

トロッコ社では、国の許可要件緩和で、観光用の「特定目的鉄道」として再生することも検討されている。しかし、これについても協会は「地域鉄道としての再生ではな

い」として、会社解散などの提案を決めた。協会を置いて方針を決めるといふ。【甲斐喜雄】

線「免許取得まで公園に」

高千穂線 町民会議 コンサルタントが提案

高千穂線の高千穂—榎峰間(約21キロ)の休止期限(12月26日)が迫る中、住民らで作る高千穂線全線復活希望町民会議は28日夜、東京のコンサルタント会社の榎崎剛社長を招いて高千穂町で勉強会を開いた。現在、浮上している観光目的鉄道として再開するまでの取

案を提案した。

計画案は全線復活を目指すものの、当面は鉄道法に基づく免許を取得しなくても公園内を走れるアトラクションの目玉として生き残りを図る。同時に、非上場企業が株式を売買できる「グリーンシート」で資金調達する。また、約3800万円集まった支援金の応募者にも、支援金分の株式取得をお願いしたり、知人に働きかけたりして新社の資金を賄うというもの。

証券会社勤務経験もある榎崎社長は「これだけの観光資源があれば、株式公開は成功し、必ず鉄道は生き残れる。そのためには高千穂町民が一丸となって、運動を起こすことが大事」と勉強会出席者を激励した。

【甲斐喜雄】